

Iwaino Daichi

# いわいの大地

農家と農業委員会をつなぐ広報誌



## 新年のごあいさつ



一関市農業委員会  
会長 石川 誠司

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方には健やかな新年をお迎えのことと存じます。

旧年中は農業委員会活動に対しまして、深いご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

さて、一関市を取り巻く農地の情勢についてですが、当市では農地の基盤整備の進捗が東北の中でも低い進捗率となっております。一関市農業委員会としても基盤整備の早期の実現に向けて、市へ要望書を提出するなどの取り組みを行っております。

そのほか、今後の農業委員会の取り組みとしては、地域計画策定のための目標地図の作成があります。地域の農地を今後どのように管理していくか、10年先の未来を見据えて考える重要な取り組みです。目標地図の作成には、地域にお住いの皆様の話し合いが重要です。将来の地域農業を守っていくためにも、皆様のご協力をよろしくお願いたします。

現体制の農業委員会は、令和6年9月で任期満了を迎えます。新しい農業委員、並びに農地利用最適化推進委員の選任にあたっては、広く公募いたしますので、この機会に農業委員会の活動に関心を持っていただき、ご推薦、ご応募いただければ幸いです。

結びに、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう、ご健勝、ご多幸を祈念し新年の挨拶とさせていただきます。

## リンゴ栽培で地域農業を元気に



令和4年3月に勤務していた一関市役所を退職し、令和5年から花泉町金沢中央リンゴ生産団地内のリンゴ園を借り、リンゴ栽培(面積:71a、品種:ふじ、シナノゴールド)を始めた鈴木浩平さん。

就農を決意したきっかけは、一関市役所農林部農政課に配属され、農作業体験や果樹生産者との交流を深めた際に、担い手不足が課題であることを知ったこと。それから「自分が力になりたい!」と就農を意識し始め、県立農業大学校の新規就農者研修に通い、相談を重ねリンゴ栽培を選

択しました。

退職後は、JAいわて平泉の果樹部会長である小岩克宏さんの下で剪定作業等約10ヶ月間の研修を受けながら、一関地方新規就農ワンストップ相談や普及センター主催の農業経営実現セミナーを受講し、就農の構想を進めていきました。そのタイミングで機械設備を含めた園地承継の情報が入り、仲間や家族と相談し迷わず就農を決意したとのこと。

就農して1年、「好天の中で開花が早く摘花作業は大変だった。一部に凍霜害を受けたが収穫量は何とか確保出来た。」と振り返ります。

将来の目標として、「お酒が好きなので、ブドウで造るワインやリンゴを生かしたシールドルを作りたい。」と話す鈴木さん。

まずは、植栽されていない60aに有望品種を作付し所得を上げ「農業の魅力を自ら示し地域農業を守りたい!」と決意を語りました。

〔花泉地域〕

鈴木 浩平さん

花泉地区農業委員 佐藤多賀幸



# 市長と農業委員会の

## 意見交換会

11月24日、農業委員、農地最適化推進委員が日々の活動の中で感じた、市の農業についての課題や解決策などについて、意見交換会を行いました。



農業人口の減少、担い手の確保といった長年の課題に加え、近年は鳥獣被害や農地の相続に関する問題が増加してきています。これらの課題をふまえ、今後、以前に作成された地域農業マスタープラン（地域計画）の見直しを各地域で行っていく予定です。

より良い計画の作成には、各地域の方々の積極的な参加も必要になってきます。

社会情勢の変化とともに、食糧安全保障の重要性が益々高まっています。農業委員会では、今回の意見交換された内容をはじめ、様々な課題解決に向けて、市、関係団体、市民の皆さんと協力しながら取り組んでいきます。

農地利用最適化推進委員

遠藤 真一

## 意見交換

### 【佐藤和幸 農業委員】

基盤整備事業に参加したいと思っているが、事業費や工期の長さなど、解決しなければならぬ問題があり、理解をいただける話し合いをするにはどうしたらいいか。



### ■市からの回答

反対している方の意見を聞き、なぜ反対されているかを理解することが必要である。

それから、地域の課題や問題を共有し、なぜ今圃場整備をやらなければならないのかを、皆さんと確認することが必要である。

圃場整備に係る勉強会を開催するなど、何度も話し合いをする必要がある、市としても、関係機関等と連携し、それらの支援を行っていく。

### 【佐藤喜明 農業委員】

今までは親子継承で農地を守ってきたが、それも難しくなっている。

就農者の事業継承について、市で考えていることがあるのか質問したい。

### ■市からの回答

様々な農業の中でも、畜産と果樹分野で新規に事業を始める場合、初期投資が大きくなってしまふ。この二つの分野について、後継者がいない方の設備を継承させる仕組みを作ろうとしている。

経営継承してもいいという方と、新規に事業を始めた方がマッチングすれば、双方にメリットがある。

まだ農業関係での事例は少ないが、商工団体ではそういったマッチングの事例が複数ある。

農業委員・農地利用推進委員の皆さんからも、各地域の経営状況などの情報をいただきたい。

### 【佐藤和威治 農業委員】

農地の引継ぎ先がない農地所有者から、市が農地を一時的に預かり、地域として有効活用ができるようなシステムを構築できないか。

農地中間管理機構では対応しにくいものを市で対応できないか。







### 市からの回答

市が土地を取得する場合は使用目的があるのが一般的であり、無条件で土地の寄付を受け付けられない状況にある。農業公社が実施する農地バンクという制度があり、農地バンクに貸付している場合は相続があっても対応してくれるため、まずは農地バンク等の活用を進めることなどと考えている。

林業の分野では森林経営管理制度というものがあり、経営できない山の経営管理権を市に移し、その後、森林経営をできる事業体に渡すという事業がある。

その場合でも、土地自体はもともとの所有者のもので、山に立つ木自体の移転になる。

農業と林業で違いはあるが、基本的なベースは同じであり、令和6年4月から相続登記の義務化が始まるということなので、それにもなうアイデアとしていただきたい。

相続がなかなか出来ないことや、基盤整備するにしても行方不明者が多いという現実を見れば、早い段階でその農地の所有権移転が必要であり、その手法として農地の所有と経営を全く別にするような着想はありだと思ってお話を聞いた。

### 千葉貞宜

#### 農地利用最適化推進委員

市の有害鳥獣対策、特にクマへの取組について教えてほしい。

また、市では販売目的で農産物を生産する農家を対象とし、有害鳥獣防止柵の設置費用に対する補助制度を設けているが、小さい農家も対象にできないのか。



### 市からの回答

クマの出没に係る対策については、人身被害防止のため、出没時の注意喚起に取り組んでいるほか、被害にあったところに訪問した際や、ホームページでクマを寄せ付けないための対策を呼び掛けている。

クマを寄せ付けない対策としては、エサになるものの除去が大事になることから、庭先に放置されている柿や栗の撤去についても周知をしている。

他にも、人里と里山が近く、緩衝地帯がない中でクマが人里に出没する状況であり、休耕田や河川敷等の草刈りなどの環境整備をし、見通しをよくすることで出没を抑制するという考え方を周知している。

捕獲対応については、人里の近くでは捕獲活動を行うことで、人身被害の防止に取り組んでいる。

侵入防止柵についてだが、限られた予算の中でご要望に対応していくことが求められるため、一定の物差しを決めなくてはならない。それが販売目的で農産物を生産する農家というところであり、ご理解いただきたい。

### 伊藤 勉

#### 農地利用最適化推進委員

基盤整備は美田を残すだけでなく、住みやすい地域をつくるための基盤整備として市道などと併せた整備をして欲しい。

また、草刈り作業の安全対策のため、多面的機能支払交付金を使って、毎年作業員に千厩職業訓練校で研修を受けさせているが、多面的機能支払交付金とは別に、市で補助できないか。

### 市からの回答

基盤整備事業等と併せた市道などの整備については、圃場整備事業と併せて整備を行っている事例もある。圃場整備事業の工事が始まってからでは難しいところもあるが、当初の計画段階であれば、関係部署と協議を行い、整備を検討することは可能である。どこまで整備可能かは個別の協議になるかと思う。

草刈りの研修に係る費用については、多面的機能支払交付金の中から支出することは可能のため、そのような制度を有効に使用して集落の中での今後の人材確保に向けた取り組みを進めていただきたい。



## 地域計画に関するお知らせ

令和2年度末に、地域農業の設計図ともいうべく「地域農業マスタープラン」を市内全域において作成し、農地の集積に向けた取組を実践しているところでもあります。しかし、今後ますます高齢化と人口減少は本格化し、耕作放棄地の拡大や担い手の不足などにより農地が適切に管理されなくなることが懸念されます。そのため、10年後を見据えた農地利用のあり方や担い手の確保対策などについて方向性を示す、「地域計画」の策定が市町村に義務化され、取組に着手しました。

地域計画の策定には、地域にお住いのみなさんの話し合いから解決策などを見出していくこととし、今後話し合いの機会を持つこととしています。話し合いには農業者のほか、後継者などの若い方や、女性の参加が特に大切と考えています。地域農業を守っていくためにも、話し合いの機会への参加についてご協力をお願いします。



# 農業者年金で明るい将来計画!

## 農業者年金で 老後も安心

【大東地域】佐藤 義則 さん



農業者年金は農業者の方なら  
広く加入できる年金です。  
詳しくは  
一関市農業委員会事務局へ  
お問い合わせください。  
電話 43-3606

今回、保険料納付期間も終わり、受給を楽しみにしていると思われる大東町曾慶の佐藤義則(61才)さんを訪問してみました。

高校卒業後、佐藤さんは東京で建築関係の仕事をしており、田植えや稲刈りの忙しい時期には実家に戻り農作業を手伝っていたそうです。その後、親から実家で就農するよう声を掛けられ、10年を区切りで就農を決意し、実家に戻りました。「親から帰ってくるよう声をかけられなかったら、戻ってくることもなく人生も変わっていたら」と笑って話されました。

父からの経営を引き継ぎ、妻と二人で酪農を基に、搾乳牛29頭・育成牛9頭・牧草11ha・水稲70aに経営規模拡大し、農業への意欲を感じます。

農業者年金は父が加入しており、旧制度の任意加入で32才から加入していました。その数年後に

農業者年金制度の大改正が行われ、周囲では脱退する人も多かったそうです。しかし佐藤さんは、「いま辞めて少ない脱退一時金をもらうより、将来年金として受け取る」と新制度の農業者年金への継続加入を選びました。新制度の農業者年金は積み立て方式なので、将来確実に掛け金を受け取ることができそうです。また、「国が保険料を補助してくれる制度を利用しないと損だ」ということで、政策支援加入で保険料の国庫補助を受けて加入してきました。

青色申告をしている中で、社会保険料控除による節税の大切さを常々感じているそうです。保険料が全額社会保険料控除の対象になるのが農業者年金の魅力の一つで、節税を意識しないのはもったいないと話しておりました。

大東地区農業委員 畠山 潔

## 全国農業新聞

購読料

月額 700円

### 全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

●お申込みは、農業委員会、本庁農政推進課、または各支所産業建設課まで

農業委員会では、一関市のホームページで委員会に関する情報を提供しています。毎月の総会日程や議事録、農作業標準賃金、届出や手続きの案内などを掲載していますのでご覧ください。

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>

一関市のトップページの「総合案内トップページへ」をクリック。画面上部の「産業振興」タブから農業委員会ページへお進みください。



### 編集後記

新年あけましておめでとうございます。日頃「いわいの大地」を愛読いただき有難うございます。

昨年新型コロナウイルス感染症が第5類に移行され、今まで自粛されていた行事が各地で開催され日常に戻りつつありますが、最近になりインフルエンザが流行し、学級閉鎖などが見受けられております。これから寒さがますます厳しくなっておりますので、感染防止対策を行い、健康で厳しい冬を乗り切りたいと思います。

私がいわいの大地の編集委員になって今年で3回目のお正月を迎える事が出来ました。その間、地域農業で頑張る方々を皆様に紹介出来た事は私にとって良い経験であり、地域農業の素晴らしさを再認識することができました。

今年の冬は暖冬の予報ですが、近年想定外の大雪が各地で観測され、農業関係でもハウスの倒壊など甚大な被害が発生しております。資材の点検などを行い、被害を最小にする様にして下さい。

今年には皆様にとって飛躍の年になる事を願い、私も頑張りたいと思います。

農地利用最適化推進委員 小野寺 修

「いわいの大地」編集委員

編集委員長 佐藤 和威治(藤沢)

副委員長 畠山 潔(大東)

編集委員 松岡 千賀子(一関)

佐藤 多賀幸(花泉)

遠藤 真一(千厩)

佐藤 想司(東山)

藤原 美喜男(室根)

小野寺 修(川崎)

